

平成 28 年度 第 2 回 (相談支援) 分科会報告書

1. 開催日時：平成 28 年 9 月 26 日(月) 13:30~15:30

2. 開催場所：八女市役所立花支所市民センター201 会議室

3. 参加者 (所属のみ)

陽だまりの里、ほっぷ、ゆうゆう、蓮の実団地よろず屋、蓮の実園ゆるっと、ねんりん、悠、ココkara、サングリーン、広川町、八女市、リーベル

4. 実施内容

○講義『高次脳機能障害の方への支援について』

講師 福岡市立心身障がい福祉センター(あいあいセンター) リハビリテーション係長
高次脳機能障害相談支援コーディネーター 和田明美氏

◆福岡県高次脳機能障害支援事業/高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置

県内 4 カ所：八女、筑後地区近隣では、久留米大学病院(弥吉氏)が拠点機関

福岡市立心身障がい福祉センター、福岡県障害者リハビリテーションセンター
産業医科大学病院

◆高次脳機能障害とは

事故や病気である日突然人生が変わる。見えない障害。困った人ではなく、困っている人。

高次脳機能障害は脳の器質的病変(CTやMRIで脳の傷が確認できる)。高齢の方は脳卒中など、

若い方は事故が原因での高次脳機能障害が多い。

◆高次脳機能障害の症状と対応

・失語症…右半身まひの人が多いが、麻痺のない人もいる

⇒コミュニケーションの工夫

・失行…運動機能は保たれているのに、一定の目的運動や行為が正しく行うことができない。

⇒繰り返し練習する。工程は少なく。

・記憶障害…事故や病気の前のことは覚えているが、新しいことが覚えられない場合が多い。

⇒覚えていないと思って接するとトラブルが減る。メモをしても、そのメモ自体を見ないと意味がない。見ることの習慣化、生活の中で、いつも見る場所にメモを貼るなど。



・注意障害…いくつかのことを同時にしようとすると混乱してしまう。

⇒ミスしやすいこと、危険なことを把握して対応する。

・遂行機能障害…優先順位が決められない、ひとつひとつ指示されないと行動にうつせない

⇒手順書やスケジュール表を作る。

・社会的行動障害…思い通りにならないと興奮し、暴力を振るったりする。

⇒薬が有効なこともある。高次脳機能障害は進行性

ではないので、うまく関われば多くは改善する。

・障害認識の問題…周りは問題を感じているが、本人は感じていないことが多い。

⇒障害認識がないと本人自身による障害への対応は難しい。

◆高次脳機能障害で精神障害者保健福祉手帳や障害年金を申請する際の診断書

精神科医だけでなく、神経内科医、脳神経外科医、リハビリテーション医など高次脳機能障害の治療に従事している医師であれば書くことができる。(厚労省からの通達)

◆家族支援の大切さ

家族は支援者、評価者であるとともに、支援を必要とする当事者でもある。突然の出来事に家族の生活も変化するが、本人は認識が低いのでゆっくり家族の話しを聞くとともに、必要に応じ家族会を紹介。

◆退院後の支援

病院と在宅の生活は違う。本人は病識がないので「大丈夫」と言うが、在宅生活に戻る初めの頃は多めに支援を入れ、毎日必ず人の目が入るように配慮が必要。

この地域は久留米大学病院にコーディネーターの方がおられる為、今後、連携していきたい。

